

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議の中で復唱し、理念の共有を行っている。	法人全体の理念をもとに事業所独自の理念が掲げられており、理念の実践ができるよう、年度のホーム目標や個人目標を設定したり、毎月の職員会議の際に理念の確認をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外で顔を合わせることがあれば挨拶を行い、地域の方との交流を交わしている。地域の夏まつりへの参加は、夏の酷暑もありできなかった。	定期的に事業所広報を地域に回覧したり、町内の夏祭りには子供神輿に事業所に寄って頂くなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回広報紙を発行し、地域へ発信している。これまではコロナ禍もあり地域行事への参加は難しかった。今後は参加できるようにし、地域の方との関係を深めて行けるよう関わっていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画、現況報告などの取り組みなどを、地域の方や行政、家族代表へ報告し意見をいただいている。頂いた意見は取り入れ、改善できるよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、区長、ご家族代表、市の担当者、民生委員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政より運営推進会議へ参加して頂いている。日頃より相互に協力体制としての電話相談や窓口での相談を行っている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイスを頂いているほか、不明な点について連絡を取り連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員位一同、身体拘束ゼロとなるよう努めている。玄関の施錠は夜間のみとしている。転倒防止のチャイムやセンサーはご家族の同意を得て、介護計画に盛り込むよう、順次対応中。	事業所にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、身体的拘束適正化検討委員会にて定期的に検討の機会を設けるなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	3月に1回の予定の身体的拘束適正化検討委員会が開催されていない回がありましたので、計画的に開催されることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待に関する研修を、新井複合施設として年2回実施している。日々のケアが虐待へと繋がらないよう、身体的拘束適正委員会を3ヶ月毎に実施し、振り返りの機会を設けている。	事業所にてスピーチロック等の研修を行い周知徹底をしているほか、職員へのアンケートも実施するなどし、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用の必要あるケースの場合は、行政機関との連携に努め活用できるよう対応している。制度利用されている利用者が入居している場合には、都度職員へ説明し制度理解に努められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は、まずは文章送付にて内容を連絡。不明点あれば来所時や電話連絡にて対応している。納得いただけただ上で同意書に署名を頂戴している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、話ができる機会には積極的に意見をもらえるよう関わっている。契約を交わす際には第三者委員や行政の相談窓口に関する説明を行い、情報提供を行っている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、玄関に意見箱を置くなど、ご家族からの意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務のなかで、職員の意見や考えが発信できるように関わり、職員会議の中で検討できるようにしている。	管理者は職員と定期的に個人面談も行き、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	職員会議の議事録の様式の年号が平成のままだったり、開催時間が記載されていないものもありましたので、今後改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務帯により業務量や休憩時間の偏りがないう、都度の改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を計画的に実施し、職員への参加を促している。事業所内のみではなく、法人内他事業所で行っている研修についても情報共有し、参加希望のある職員が参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホーム管理者で定期的な会議を実施。そのなかで、職員が合同で参加できる研修を開催し、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約開始前に、本人や家族より要望を聞き取り、安心できる環境で生活が送れるよう支援している。入居後も本人の様子を観察し、声をかけ、信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際にはご家族より不安な点や困り事などを聞き取り、安心して入居してもらえるよう関わっている。入居前には施設内を見学してもらい、改めて要望を聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の生活の様子や行動を確認したり、要望・希望や想いを聞き取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることが継続できるよう、家事の手伝いを依頼したり、1人1人役割を持って生活してもらえよう支援している。入居者と職員との関係を深められるよう会話の機会を作り、食事作りや畑仕事などでは入居者から学ぶことも多くある。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出の際にはご家族からの協力を得るようにしている。居室での面会が可能となつてからは、面会希望も多く聞かれ、ご家族からも感謝の言葉を頂いた。面会の場以外でも、年に2回近況報告を書面で送付し、施設での生活の様子を少しでも把握いただけるよう対応している。	ホームでの活動の様子をまとめた事業所広報を年4回送付しているほか、ご利用者毎に近況報告を年2回作成しお送りしています。また、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方からの面会も対応し、馴染みの関係が継続できるようにしている。施設での外出計画の際は、入居者の馴染みの場所にも行けるよう計画している。	ご家族に面会に来て頂いたり、ご自宅に出かける方やお墓参りに出かける方もいるなど、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は、一日の中でも変化することがある。入居者同士の会話に耳を傾け、より良い関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了の際には、今後も相談いただけるよう声をかけ、些細なことでも困り事や相談があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、希望や意向を聞き取り把握するよう努めている。意向確認が困難な場合でも、本人の行動や様子から推測し、職員で検討している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は生活記録にて記録され、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議にはご本人・ご家族にも参加していただき、要望を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談では、これまでの生活歴や生活環境、サービス内容を把握するよう努めている。入居が決まった際には「私の生活シート」や「私の暮らしシート」をご家族に記入していただき、把握に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活史や暮らし方を確認しています。また、日々の生活で得られた情報についても定期的に情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や体調チェック、日々の暮らしの中での関りて心身状態や有する能力を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを行い、介護計画の実施状況の評価している。6か月の見直し時にはご家族へ介護計画についての状況報告を行い、意向も確認している。介護計画の変更時等、必要に応じサービス担当者会議を実施し、ご本人の状態に合わせて担当とも話し合い、介護計画を作成している。	居室担当者が毎月モニタリングを介護計画の評価を行っています。また、6ヶ月に1度はサービス担当者会議を行い、ご利用者、ご家族に意向を確認し、介護計画の検討を行っています。	予定のモニタリングが実施されていないご利用者もいましたので、今後モレの起きないように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実施状況については個々の生活記録に記入。状態の変化や対応の変更があれば、業務日誌や職員連絡ノートに記入し、共有に努めている。毎月のカンファレンスでは日々の様子を話し合い、情報共有し、対応を検討し、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物など家族様の状況により職員が付き添いを行っている。また各種手続きなども必要に応じてご家族様の代行を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋に開催された祭りにはボランティアにも来てもらい、地域で活動されている方との交流ができた。理髪には地域の理髪店に訪問いただいている。今後はよりコロナ以前と同様な関わりが出来るよう、更なる工夫や関わりを持てるよう支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が信頼のおけるかかりつけ医に継続して診療いただけるよう、またかかりつけ医を変更する際は次の病院への相談に乗り、適切な医療を受けられるよう努めている	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、ホームに往診も来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表をご家族に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が訪問し、入居者の健康チェックを行っている。それ以外でも特変時の指示、排便コントロールについて相談している。主治医への連携を要す際にも相談し、医療へ繋ぐ体制作りにも協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には担当看護師や地域連携室と情報交換・情報共有を行い、状態把握に努め、ご本人やご家族の気持ちを確認しながら退院に向けた状態の確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の過ごし方については、都度の変化や状態、これからの生活についてご家族に報告し、担当者会議等でも意向を確認している。主治医とも協力体制や支援の方針など段階的に話し合いの場を設定している。	事業所として看取り介護も行う方針のもと、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間計画に沿って避難訓練年2回(日中、夜間想定)、水防訓練、連絡網伝達訓練年2回行い、災害時に備え、訓練を実施している。救命講習会や吐物処理など、必要な研修も定期的に行なっている。	事業所にて心肺蘇生やAEDの使用研修を行っており、職員が急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、職員は火災想定避難訓練、水防訓練を行い災害に備え、いざという時に行動できるよう訓練を行っている。地域の消防組織との連携も図っており、協力体制を築いている。	併設の事業所と合同で日中や夜間の火災や水害を想定した避難訓練を行なっています。また、緊急連絡訓練も行う等、災害時に適切な対応がとれるように徹底されています。	調査時点で緊急連絡網が実態と合っていないため、職員に異動等に合わせて見直されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や更衣等の声掛けは、他入居者への配慮を行い、耳元で小声で確認したり、筆談を用いて気をつけている。一人ひとりを尊重し、否定せず傾聴し、その人らしさが失われないような対応を心掛けている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように接遇研修の場等で徹底されています。また、契約時に広報等への写真の掲載についてもご家族に確認を得ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えを急がせず、本人が選択できるような声掛けを行っている。選択が困難な場合でも声掛けを工夫し、自己決定できるようにしている。入浴時の衣類や飲み物、活動内容や過ごし方などの希望を確認し、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人がどうしたいか希望を確認している。入居者本人が主役であることを理解し、安心して生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を行ったり、毎朝の整容は声掛けを行い支援している。服装の乱れなども常時気にかけて整えている。衣類については必要に応じてご家族へ依頼し購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時には入居者に何が食べたいかをたずね、意向に沿えるようにし、食事が楽しみになるよう努めている。季節の食材を使うよう心掛け、誕生日には本人の希望のメニューを出せるようにしている。食材の皮むきや調理、食器拭きなどできる事を手伝って頂いている。	ご利用者にもできる範囲で食事の準備や、後片付けも行ってもらっています。また、季節の献立や誕生日メニューを取り入れたり、事業所の畑で野菜を収穫したり、笹寿司作りもしており、ご利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量、形態で食事を提供し、食事量のチェックをしている。水分摂取については摂取量が少ない方には好みの水分を提供したり声掛けを行っている。水分摂取量も把握し、申し送っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、入居者に合わせ見守りや介助を行い、義歯管理に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックし、本人の希望に合わせたトイレ誘導や声かけを行っている。排泄時は必要に応じて見守り、声掛けを行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便パターンを把握するよう努めている。食事にはきのこや海藻類を取り入れる等の工夫を行っているが、個々に応じた対応までは難しいと考える。主治医へも報告し、薬の服用にて対応もしている。歩行運動や体操などを行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの状態、好みに合わせた入浴を行っている。入浴も自己決定できるような声掛けを行っている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。また、季節に合わせて菖蒲湯を提供したり、入浴を嫌がる方にも職員がタイミングを考慮して、うまく誘導し入浴して頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動に参加してもらい、夜間よく眠れるようにと支援している。眠れない方に対しては話をうかがい、安心してもらえるよう努めている。活動はあくまで任意であり、日中もいつでも休めるよう、ご本人の意向に合わせた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を、職員がいつでも確認できるようファイリングし、服用目的が理解できるよう努めている。必要に応じ看護師や医療職と連携・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好みを把握するよう努め、やりがいや喜びに繋がるような活動が提供できるよう工夫している。施設生活の中でもご本人とのかかわりの中で好みを確認し、その時のご本人の嗜好に合うように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の生活の中でも、天候に合わせて外気浴を行なうなど、外気に触れる機会を多く持つよう努めている。行事等の外出の際は、入居者の馴染みの場所にも行けるよう、計画的に行っている。コロナ禍もあり、ご家族や地域の人との協力を得ながらの活動は難しかった。今後の課題としたい。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、ご利用者と一緒に季節に合わせてお花見やあじさい見学、はす見学や紅葉見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設として金銭管理を行っていないため、ご本人がお金を持つケースは少ない。金銭管理を本人で行うことで安心されるようなケースでは、自己管理の中で所持して頂いている。今後は本人で買い物できるような活動を検討していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が家族の心配をしたり声を聴きたいと希望のあった際は、出来る限り対応するよう努めている。電話の使用方法の理解が困難な方には職員が代行し、電話口では本人に代わるような対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の老朽化に伴い、戸の開け閉めの音が大きくなったため、修繕を行い改善に努めた。室温や湿度は入居者が心地よいものとなるよう、入居者に確認しながら調整をしている。	天井が吹き抜けのためとても広く感じられ、また窓からの採光が工夫されており明るく感じられます。リビングにはご利用者が作ったカレンダーや作品、行事の際の写真が飾られ、家庭的な雰囲気が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は、気の合った入居者同士で過ごせる工夫している。共用廊下にソファを設置し、1人になれる場所が確保できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅に近い空間で過ごせるよう、使い慣れた物や必要な物を用意してもらうようお願いしている。ご家族やペットの写真を飾ったり、使い慣れた寝具を用意していただき、居心地よく過ごされている方もいる。ご本人の状態が変化した際は、その時の状態に合う過ごしやすい空間作りができるよう、ご家族と連絡し協力のもと設えを調整している。	ご利用者には使い慣れた家具や時計などをお持ち込み頂き、居室にホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が混乱しないよう、各居室には表札を設け、ご自分の居室がわかるようにしている。トイレの場所もわかるよう明記し、室内照明は入居者自身で調整できるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない